

# 玉川教会たより

NO. 492

2017年4月16日

町田市玉川学園4-5-32

TEL. 042-732-9321

FAX. 042-732-9337

Eメール chiyosi514@yahoo.co.jp

## 『誰を捜しているのか』

ヨハネ20:1~18

▼人は少年時代から、後期高齢者になるまで、常に、何かを探して生きていないのでしょうか。一生を費やしても発見できないものもあるし、見つけたと思った瞬間に、それを通り抜けてしまって、また迷子道に入ることもあります。

誰かを捜して生きていると言い換えることも出来るでしょう。

▼「マリアは墓の外に立って泣いていた。」

何故マリアなのか、マリアは、愛する者を失い嘆き泣く者の象徴なのです。愛する者を失っても、ただ嘆き泣くしかない無力な者の象徴なのです。



▼ところで、マリアは何故イエス様が分からなかったのか。14節。

「こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。

しかし、それがイエスだとは分からなかった。」

涙で目が曇っていたからかも知れませんが、そのような、些末なことでない。マリアが見たものは、唯の地上のイエス、ナザレのイエスではなく、復活の主イエスなのです。

20章の後半や21章に描かれる所を読むと、復活のイエスさまは、地上におられる時と同じような姿で、同じような行動を取られる。しかし、復活の主イエスなのです。むしろ、あの山上の変容のような、光輝く姿をなさっていてもおかしくないのです。

否、既に、十字架において、栄光に輝くお姿となられたのです。

▼マリアとイエスさまの会話は、イエスさまが復活し、イエスさまをよくよく見知っていた者に、その姿を現されたということが、肝心な所です。嘘でも幻想でもなく、単なる願望でもない、事実だということ、それが強調されているのです。

しかし、同時に復活のイエスさまにお会い出来るのは、信仰によってのみです。復活は、嘘でも幻想でもなく、単なる願望でもない事実です。しかし、それ以上に、神秘の事柄です。だから、復活のイエスさまにお会い出来るのは、信仰によってのみなのです。

▼信仰も何も無いけれども、復活のイエスさまが、弟子たちに会うために道を歩いておられるのを、偶然見かけたなどという、そういう証言は存在しません。

それなのに、地上のイエスさまを見たかどうかではなく、拘るべきは、復活のイエスさまに出会ったかどうかです。

地上のイエスさまを毎日のように見ている、信仰には至らず、復活のイエスさまに出会うことが出来なかった人間が大勢います。

私たちは、地上のイエス様を見ることは大変困難で、聖書を通じて伺い知るだけかも知れませんが、しかし、信仰によって、復活のイエス様に出会うことが出来るのです。

他の人に向かって、このように証言することが出来るのです。

『わたしは主を見ました』



▼「わたしにすがりつくのはよしなさい」。復活の主こそ、弱っている者も、礼拝に出ることが困難になっている者も、家族にとっても、教会にとっても、自分は居てもいなくても良い存在なのではないだろうか、そう考えて落ち込んでいる者も、すがりつくのではなくて、復活の主に導かれて、復活の主と共に、神の国を目指すのです。